

絆を深め、よりよいふるさとをつくる活動を支える取組

対象学校名等	郡上市立八幡中学校	対象学年	3年生
支援活動内容	郡上市市民協働センターによる「ふるさと郡上の将来を考える」総合的な学習の支援		

学校の願い

- ・1年生で「ふるさと郡上に目を向ける」総合的な学習、2年生で「ふるさと郡上で学ぶ」総合的な学習を展開している。これらの学習を踏まえ3年生では、「ふるさと郡上の将来を考える」と題し、八幡町の魅力や資源を活かし、地域を活性化させる「町づくり企画書」作成に取り組む。
- ・企画書の実現に向け、地域の人と関わることによって、地域への愛着や誇りをもち、地域課題に目を向け、地域を活性化していく力を育みたい。
- ・企画書が具体化する過程を通して学んだことをもとに、将来の郡上の担い手に育ってほしい。

活動内容

- 1 市民協働センターの方から話を聞く。
よりよい町づくりを推進している方々の存在に気づき、町づくりへの参画意識を高める。
- 2 グループごとに、企画案を作成する。
各自調べたり考えたりした内容をもとにグループを編成し、企画原案を作成。企画案を実現可能なものにするため、地域関係者を訪ねたり、インタビュー活動を行ったりして企画書を創り上げる。
- 3 市民協働センター主催の「Good 郡上プロジェクト」に企画書を応募
- 4 入選作品を「市まちづくりフェスティバル」において発表。
- 5 提案を具体化する取組

中高生鮎友釣り選手権

若い頃から地域文化の鮎かけに触れ、若者の釣り人口を増やそうという企画

- ・生徒が実行委員会を組織
- ・関係団体を訪ねて、企画を説明し協力を依頼
- ・漁協関係者から川の環境や鮎の特性についてのレクチャーを受講
- ・鮎釣り団体メンバーからの実技講習を受講
- ・第一回中高生鮎友釣り選手権開催

あゆのカルツォーネ

郡上市の特産品である鮎を使い、八幡の町で歩きながら食べられる新名物を企画

- ・市民協働センターが郡上のレストランシェフに依頼
- ・試作品の試食会
- ・「市まちづくりフェスティバル」にて成果発表

活動の効果

【生徒の作文】

「町づくり企画書」の作成を通してお世話になった地域の方々と話をする中で、多くの方がふるさと郡上の活性化について真剣に考え活動していることを知りました。自分たちでもいろいろ考えたり、調査したりする中で、企画が本物になっていくことが楽しいと感じたし、郡上八幡のことが好きになりました。



- ・自分たちがよりよい町づくりに参画していこうという意識や意欲が高まり、熱心に「町づくり企画書」作成に取り組むようになっている。その結果、地域の方々や行政関係者から高い評価を得る企画が多く生まれている。
- ・生徒会が地域への貢献を呼び掛けるようになり、校区の公民館行事や市青少年郷土フェスティバルのボランティアスタッフとして多数参加するなど、地域行事に積極的に関わるようになってきた。地域の方との交流を深め、地域の一員としての意識が芽生えてきた。